

【4】 摩訶迦葉に関する各エピソード資料の資料水準

【1】以上【3】【4】において、機械的にわれわれが採用している文献整理の順序にしたがって、摩訶迦葉に関するエピソード資料を紹介した。しかしこれでは摩訶迦葉に関する全体のイメージが描きにくいと思われるので、類似のエピソードをいくつかの項目に括って表を作ってみた。

なおわれわれの資料観は【2】に書いたように、A文献のパーリ聖典と漢訳聖典両方に存在する資料が第1次水準資料、パーリにしか存在しないものが第2次水準資料、漢訳にしか存在しないものが第3次水準資料ということになるので、これが一目で判定できるように一つ一つの項目別に、パーリと漢訳を分けて存否を示した。原則として、A文献のパーリと漢の両方に○が付いているものは「第1次水準資料」、パーリにしか○がついていないものは「第2次水準資料」、漢にしか○がついていないものは「第3次水準資料」と考えていただきたい。

しかし「原則として」と書いたのは、この見出しはかなり大ざっぱなもので、実際にはもっと精細に検討を加えなければならないからである。例えば以下の論述においては、1節を設けて摩訶迦葉と阿難との関係を取り上げる予定であるが、しかしこれが項目として掲げられているのは《33》のみである。しかし実際には他の多くの項目中に溶け込んでいて、表面には現われていないにすぎない。

また摩訶迦葉が梵行を修した年数とか、出家してから釈尊の弟子になるまでの年数など細かなところでは異なった伝承がたくさんあって、この表ではこれらの水準は判定できない。このように表に現われたものはごく便宜的なものであって、これをもって「資料」の有無を判断しないようお願いしたい。

B文献についてはすべてが第4次水準資料ということになり、われわれの資料水準基準には関係がないが、しかし伝承の系統としては重要であろうと考えられるので、これについてもパーリと漢訳を分けて示した。なおパーリのA文献にあるエピソードは、B文献のところに○が付してなくともあるものと考えていただきたい。この両者は一体となっていて、A文献をB文献が知らないということはありません。

項 目	A 文献		B 文献	
	パ	漢	パ	漢
釈尊の葬儀と第一結集に関するエピソード				
《1》 釈尊の入滅を知る	○	○		○
スバツダの暴言	○	○		○
火葬の薪に火がつく	○	○		○
《37》 結集の発議	○	○	○	○
結集を行う	○	○	○	
阿難の過失を告発する	○	○		○
プラーナ遅れて到着する	○	○		
チャンナの梵壇	○	○		

出家に関するエピソード				
《14》 阿難を童子のごとしと非難する	○	○		
「もと外道」と非難される	○	○	○	
自ら出家する	○	○	○	○
世尊は師私は弟子	○	○		○
糞掃衣を交換する	○	○		○
世尊の嗣子	○	○	○	
《26》 摩訶迦葉の妻の物語		○	○	○
《31》 バッター・カピラーニー比丘尼の偈	○			
《48》 受具足戒の種類		○		○
《108》 摩訶迦葉の出家時期			○	
頭陀行者に関するエピソード				
《2》 頭陀行を尊ぶ	○	○		
《3》 摩訶迦葉のグループは頭陀説者	○	○		
《4》 どのような衣食にも満足する者	○			
《6》 在家に近づくに摩訶迦葉を模範とせよ	○	○		
《7》 乞食するに摩訶迦葉を模範とせよ	○	○		
《8》 釈尊は老年の迦葉に糞掃衣を捨てるよう勧める	○	○		○
《18》 頭陀行第一	○	○	○	○
《19》 貪欲などの十法を捨てよと説く	○			
《20》 釈尊が頭陀行を讃められる		○		
《27》 貧民街を乞食する	○			○
《28》 帝釈天が摩訶迦葉に供養する	○		○	○
《29》 摩訶迦葉の偈	○			
《35》 「不失衣界設定」制定の因縁	○	○		○
《38》 「長衣戒」 (『四分律』捨墮 001) の制戒因縁		○		○
《39》 「長鉢戒」 (『四分律』捨墮 021) の制戒因縁		○		
《40》 「不受食戒」 (『五分律』墮 037) の制定因縁		○		
《41》 「謗廻衆利物戒」 (『五分律』墮 080) 制定の因縁		○		
《46》 使浄人主制定の因縁		○		
《103》 無執着であること			○	

サンガ内の特別な存在であったことを示すエピソード				
《5》 舍利弗が熱心と愧について摩訶迦葉に質問する	○			
《9》 説法せよという釈尊の命を断る①	○	○	○	○
《10》 説法せよという釈尊の命を断る②	○	○		
《11》 説法せよという釈尊の命を断る③	○	○		
《12》 摩訶迦葉は釈尊と同じ禅定を得ている	○	○		○
世尊半座を分かたれる		○		○
《15》 舍利弗が無記について摩訶迦葉に質問する	○	○		
《16》 釈尊が摩訶迦葉に正法と像法を説かれる	○	○		
《17》 釈尊が摩訶迦葉の病気を見舞われる	○			○
《23》 法を付嘱される		○		○
《25》 迦葉は過去の諸仏の声聞より勝れる		○		
《30》 ブッダの相続者	○		○	○
《33》 阿難との関係	○		○	○
《49》 大威徳ある摩訶迦葉		○		
《50》 マートリカーを知る者		○		
《102》 摩訶迦葉の及ばぬこと			○	
《106》 迦葉を「大」迦葉と呼ぶ所以			○	○
《112》 まだ如来が出世していないときに実法に入る				○
《113》 五大精舎を経営す				○
摩訶迦葉とトゥッラナンダー比丘尼の関係に関するエピソード				
《13》 比丘尼に説法してトゥッラティッサー尼に侮辱される	○	○	○	
《43》 偷羅難陀比丘尼との関係		○		○
入定に関するエピソード				
《24》 入定して滅度を取らず		○		○
その他のエピソード				
《21》 摩訶迦葉は婆羅門		○		
《22》 摩訶迦葉の紹介		○	○	○
《32》 「無主作房戒」 (僧残 006) の制戒因縁	○	○	○	○
《34》 2人同時の授具足戒制定の因縁	○			
《36》 疎に縫うことの許可の因縁	○			

《42》神通禁止制定の因縁		○		
《44》「水中戯戒」(『十誦律』波夜提 064) 制定の因縁		○		
《45》夏安居中の施衣の扱い		○		
《47》手巾拭制定の因縁		○		
《101》120歳の寿命を有する			○	
《104》摩訶迦葉は世尊の足下に坐る			○	
《105》摩訶迦葉の共住弟子が強盗になる			○	
《107》愚者と伴ってはならない			○	
《109》摩訶迦葉の仲のよい二人の共住弟子			○	
《110》「絵を画くべからず」の因縁				○
《111》畢鉢羅窟に住む				○

[2] 上記の表から、あくまでもおおまかな項目であるが、釈尊の葬儀・第一結集に関するエピソード、出家に関するエピソード、摩訶迦葉を頭陀行者とするエピソード、サンガ内の特別な存在であるとするエピソード、摩訶迦葉とトゥッラナンダー尼の関係に関するエピソードは漢巴両聖典に見いだされる第1次水準資料であることがわかる。これに対して入定に関するエピソードやその他のエピソードは水準が低い。

以下にはこれらのエピソードを資料水準の高いものから順次検討していきたい。